

テーマ

キャンパスの環境保全をめざすサークル  
「みんなが過ごしやすいキャンパスを作ろう！」

■出席者

- 林 未知子さん  
(応用生物科学部 2年生)
- 日恵野 綾香さん  
(応用生物科学部 2年生)
- 市森 友貴さん  
(応用生物科学部 2年生)

サークルの名は「three trees(スリーツリーズ)」、6年前、キャンパス北東部に位置する自然保存池「鶴ヶ池」に森を作ろうという壮大な計画を抱き、結成したサークルです。

サークルに入ったきっかけは？

▼スリーツリーズの皆さん、こんにちは。three trees—3本の木—それを漢字では書くと「森」。サークル目標がそのままの名前なんです。

市森▼私たち、「スリッリ」って言うてます。

▼バス待合所の植物の壁、図書館前の花壇、進入路のプランターと、いつもキャンパスを花できれいにしてくれてありがとうございます。

のサークルに入ったきっかけは？入学前から植物に興味があったの？  
日恵野▼私は、入学式のとぎ貰ったサークルの紹介冊子で、この「three trees」を知りました。

入ろうと決めていたサークルはなかったの、「環境」に関わることなら何でもしてみたかったのと、在学中にできるだけ多くの経験をしたかったの、サークル活動でも、自分の関心の高いものを選んで入りました。

実は、大学の志望動機も、地元環境破壊(ゴルフ場建設やゴミ処理場建設、土砂採掘による森林伐採など)がきっかけで環境問題に興味を持つようになり、環境について深く学べる学部を探していて、岐阜大学に決めました。

市森▼私も、森林のことに興味があつて、この大学に入りました。森林面積が80%もある岐阜県には学べる場がたくさんあると思うたのも志望理由の一つでした。「three trees」の存在は、高校3年生の夏、

オープンキャンパスの時から知っていて、大学に受かったら入ろうと決めていました。

林▼私の志望動機も、だいたい二人と一緒です。学部を選んだ理由は、他にもありますが、やはり「環境問題」に関心があったからです。だから、サークルも、活動が大学や地域に認められている「three trees」を選びました。

▼わー！ 3人とも「環境」について、入学前から関心が高かったのですね。  
ところで、皆さんの名前も「野、林、森」とついていて、偶然とはいえ不思議(笑)。それで、今の具体的な活動は？

サークルの活動は、身近なところから緑化

その1.キャンパスに森をつくる活動

林▼サークルの一番の目標は、「鶴ヶ池」の森作りです。ここは、もともと沼地なので、土壌環境とか水環境とか、植生や生物層の調



▲図書館前の花壇



▲新しく加えたオカメツタ



▲活動の原点:バス停の緑の壁



査を行い、どんな種類の木をどのくらいの密度で配置するかなど考えなければなりません。

**日恵野**▼安易な森作りは、今ある生態系を壊してしまい、鶴ヶ池にやってくる鳥たちの生活の場を奪うことになるので、生態系のことを考え、慎重に準備を進めています。

### その2 バス待合所の壁面緑化

**市森**▼2年前にバス停が新しくなるとき、待合所の壁に、つる植物を這わす柵をつけてもらえました。先輩達の地道な活動が認められたからです。今は、もつと植物の密度を上げるため、これまで植えていた「スイカズラ」「ヘデラ」「トケイソウ」のほかに、「オカメヅタ」を加えて栽培しています。

**林**▼バス停の緑化は、植物が持つ水の蒸散効果で気温の上昇を抑えたり、直射日光を遮つたりと、バス利用者のためですが、やっぱり大学の入口なので、皆さんにきれいな大学だと思ってもらいたくて始めました。でも、木の陰になって育ちが悪かったり、地面じゃなくプランターに植えているので、葉のつきが悪かったりして、結構、問題を抱えています。植物の力だけでは緑の壁にう

まくならないので、定期的に手を加え、柵に巻き付いたり、剪定などの管理をしています。

▼そんな皆さんの気持ち、きつと伝わっていますよ。

### その3 花壇・堆肥作り、プランターを設置

#### プランターを設置

**日恵野**▼大学の入口だけでなく、もつと花を増やしてきれいな大学にしたいので、図書館前の花壇や大学の進入路とか、応用生物科学部棟前でもプランターで花を咲かせています。それに、進入路のプランター設置は景観を彩るだけでなく、違法駐車防止にも役だっています。

**市森**▼いつも同じ花では、見ている人もつまらないと思い、イチゴやバジルなど、普通、花壇に植えないようなものも植えて、デザインを工夫しています。少しでも、行き交う人の興味を引くことができるように、これからもいろいろな植物を植えていきたいと思っています。

**林**▼それから、花壇の土には、学生食堂から出る生ゴミと学内の落ち葉から堆肥を作り、混ぜています。規模は小さいですが、学内での循環システムです。水やりや

除草などの管理は大変ですが、皆さんが緑の良さを感じてくれるように緑化活動に励んでいます。

### そして、森作りへ

▼さて、メインの森づくり、時間がかかりますが、こちらの活動は？

**林**▼大きな構想だけに、活動となるとなかなか難しいです。専門家によるしっかりした構想ではないので、自分たちで学び、実践するって、高校までの受動的な活動とはぜんぜん違うし……。

**日恵野**▼2年生になって、私たちに新入生の勧誘を任せられ、改めてこれまでの活動を振り返るため、サークル創設時の構想を活動記録で読みました。先輩達の努力はわかりましたが、先輩達は、大学から「森作り」構想の許可を得るための実績づくりとして、学内の緑化活動を中心に行ってきたので、正直、森作りは、うまく継続されていません。

**林**▼だけど、今の私たちにできることは何か？先輩と話したり、応用生物科学部の先生に相談にのつていただいたりして、やつと今、当面の活動の方向性が見つかりました。



▲試験線の苗木



▲生ゴミと落ち葉から堆肥を作る



▲応用生物科学部棟前のプランター



▲大学進入路に並ぶプランター

▼新たな活動計画って、どんなもの？

**日恵野**▼私たち、「森」を知っているようで、実は何も知らなかった。

先日、大学院で研究している先輩について、里山の手入れを手伝わせてもらいました。「立ち枯らし間伐」という、伐採しないで立っただまま木を枯らす新しい方法で、簡単であり労力がかからないのが特徴です。

**市森**▼日本の森は今、林業が衰退したことで放置されていることが多く、木が生えすぎ、とても荒れてしまつて、自然のダムとしての機能が失われたり、動物たちが住みにくい森になつてしまつていんです。作業に参加し、現場の方から話を聞いて、この厳しい現状を痛切に感じました。健康な森をとりもどし、自然災害を防ぐためには、里山の森にどんどん手を入れていかなければならないんだ、と強く実感したので、他の間伐ボランティアなど大学外での活動にも積極的に参加していきたいと思つています。

**林**▼それに、私たち、木の知識も少なくして……。そこで森を作る第一歩として、先生方の協力を得て、「美

濃加茂農場」の防風林で、植樹を手伝わせてもらいます。ここで実際に植栽して、管理の仕方を実践的に学び、自分たちの森作りのための知識や経験を得るつもりです。

**市森**▼木の種類、土壌や植生を調べて、どんな木を植えると育つのか、ちゃんと環境が維持できるか、とにかく学ぶことがいっぱいあります。

**林**▼この防風林の植樹には、研究生が応用生物科学部の試験林で育てた苗木を使います。残念ながら、この苗木は森林性なので、湿地である鶴ヶ池の森づくりに役に立ちません。だけど、木のことがかかるし、興味をもつて、とても楽しく活動できています。

▼皆さんの意欲、すごいですね。

**市森**▼ええ、不満を抱えて、何もしていない時期もありましたが、「やりたいことがあるなら自分から動かなければだめだ」ということを実感しています。動けば、一緒に動いてくれる仲間や、協力してくれる人がたくさんいることがわかりました。

**林**▼在学中だけでは、もちろん大きな活動はできないけど、土台づくりも大切なことだとわかりました。

目標にむかつて試行錯誤ですが、みんなで頑張つていきたいです。

**森、そして鳥の楽園に**

**日恵野**▼それから「鶴ヶ池」は名前のとおり、鶴や野鳥がたくさん集まってきました。

特に、朝は鳥の楽園のようです。大学の人だけでなく、一般の方たち誰もが、バードウォッチングを楽しめるように、アクセス道路をつくるなんて話も、持ち上がっています。だけど、手を加えるつて慎重にしなければ、肝心の野鳥が来なくなつてしまふし……。だから私たちは、生態系がもつと豊かになる森作りを目指しています。

▼皆さんの活動が学内にもつと広がり、さらに、これから入学してくる学生にも受け継がれていくと、「鶴ヶ池」が水と緑のオアシスになり、素敵な森になつていきそうですね。皆さんの日頃のサークル活動や大学での学習は、卒業してからも、そのまま潤いのある社会づくりに繋がりそうな気がします。嬉しくなる取り組みですね。今日は、どうもありがとうございました。

(聞き手 岐阜大学広報室)



▲美濃加茂農場(応用生物科学部の農場で大学から約40km東にある)



▲里山手入れの一方「立ち枯らし間伐」



▲里山手入れをしている皆さんと一緒に